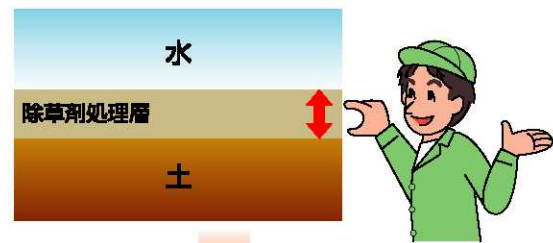


田植え同時処理除草剤の上手な使い方とは

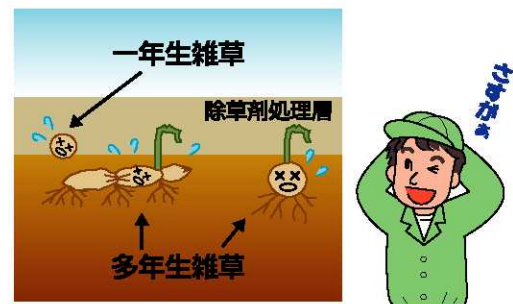
除草効果と薬剤の関係

効果

水田に散布された除草剤は水中に分散してからゆっくりと土壌に吸収され、土壌表面に薬剤の処理層を作ります。



一年生雑草は土壌表面にある種子が出芽します。これらの種子は発芽時薬剤処理層の影響を受け、発芽しないか、発芽してもすぐに枯れてしまいます。
多年生雑草は深い位置からも発生しますが、薬剤処理層を通過するとき茎部や基部から薬剤を吸収して成長が困難な状態になります。



薬害

苗は土壌表面から2cm位の深度に植え付けられるため、除草剤の直接的な影響を受けにくいですが、浅植えや浮き苗の状態では苗の根が直接薬剤に触れるため、薬害の原因となります。極端な砂壤土水田では処理層の形成が困難になり、薬剤が土中に浸透し、苗の根に触れるため薬害の原因となります。



1 代かきは丁寧に均平度を保つこと。落水して移植を行う方は移植後24時間以内に十分な湛水深(3cm~5cm)が確保されるよう、入水すること。(入水後止め水7日間)

注意 土壌表面が均平でないと効果ムラ、薬害の原因となります。

注意 除草剤は分散してから土壌表面に均一に処理層を作ります。入水が遅れると効果ムラの原因となります。

注意 土壌が均平でないと浅植えや浮き苗の原因となり、薬害が発生する場合があります。

注意 土壌表面が露出した状態では処理層は作られず、十分な効果が得られません。

2 浅植えや浮き苗のないよう植え付け、適正な深度を保つこと。

注意 浅植えや浮き苗は薬害の原因となります。

注意 極端に植え穴の戻りが悪い水田では田植え同時処理を行わない。

3 極端に植え穴の戻りが悪い水田では田植え同時処理を行わない。

注意 薬剤が直接苗の根に触れて薬害の原因となります。

4 除草剤散布後の補植は極力行わない。

注意 除草剤散布後の補植は、水田内を歩行することにより処理層を壊し、効果フレの原因となります。また、補植した苗の根が直接処理層に触れるため、薬害の原因となります。

注意 移植時までに雑草の生育が進み、効果が十分に得られない場合があります。

5 代かきから田植えまで日数があく水田では、処理時期の雑草の葉令に注意すること。

注意 移植時までに雑草の生育が進み、効果が十分に得られない場合があります。

田植えまでの日数が多いと雑草の葉令に注意してね!



クボタ田植え同時除草剤散布機

こまきちゃん

田植え同時散布で大幅に省力化

圃場外に飛散せず安心して快適な作業

◆田植え同時防除に使用できる主な除草剤◆

- ・イノーバDXアップ粒剤
- ・イノーバDX粒剤
- ・ビッグシュアエース粒剤
- ・クサカリテイオー粒剤
- ・ライジング粒剤
- ・トップガンGT粒剤
- ・クサトリーDX粒剤